



突撃!

# リスクマネージャー!

123号

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.122 小金井リハビリテーション病院 医療安全管理部 医療安全管理者 田浦弘之 様



【小金井リハビリテーション病院／東京都小金井市】



【田浦様】

## ■病院の紹介（巨樹の会沿革抜粋）

昭和 29 年 5 月 総合病院・林兼診療協会 林兼病院 開院  
 平成 14 年 4 月 医療法人財団池友会に経営を移譲  
 平成 20 年 3 月 社団法人巨樹の会を創立  
 平成 24 年 5 月 小金井リハビリテーション病院開院  
 平成 25 年 4 月 社団法人から一般社団法人へ名称変更  
 平成 25 年 7 月 巨樹の会本部移転  
 （山口県下関市→佐賀県武雄市）

病床数：巨樹の会全体 2,142 床  
 小金井リハビリテーション病院 220 床

## ■病院の基本理念

手には技術 頭には知識 患者様には愛を

## ■病院の基本方針

1. 安心・安全な医療  
 学問的に高い水準の安心・安全な医療を提供します。  
 そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。
2. 回復期リハビリテーション医療  
 患者様・家族と医療情報を共有し、回復期リハビリテーション病院として入院から在宅まで一貫した、患者様のニーズに沿った安心できるチーム医療を提案します。
3. 地域医療  
 地域の医療・福祉施設と密接な連携をとり、寝たきり「ゼロ」、在宅復帰を目標に誰でも安心して利用できる、回復期リハビリテーション病院を目指します。

## 1. 組織体制について

医療安全に関する組織体制を教えてください。

当院では、病院長直下に「医療安全管理部」があります。院長が医療安全管理委員長を務めおり、医療安全統括責任者は看護部長、医療安全管理報告者は私が担っています。その他に医療安全管理者が 6 名在席しており、各部署のリスクマネージャーと共に医療安全を推進しています。

田浦様の主な業務内容を、院内各部署との連携を含めて教えてください。

各部署のインシデントレポート・アクシデントレポート、ヒヤリハットの報告を集約して、毎月 1 回開催される医療安全委員会・医療安全管理委員会の場で対策や検討内容を報告しています。その中でも、重大な事例が発生し早急な対応が必要な場合には、医局を含めた各部署とのカンファレンスを行って対応策を講じるようにしています。

当院は回復期病院であり、スタッフの病棟間の応援も盛んに行われているため、注意喚起に使用する掲示物の統一を図っています。また、定期的にマニュアル見直しを行うなど、人的ミスが起きないように取り組んでいます。

## 2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

近年の事例発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

転倒件数は、昨年と比較して 40 件程度減少しており、対策の成果が確実に出ています。

転倒・転落事故で、当院スタッフに起因する事例は、各部署のリスクマネージャーが徹底して改善活動を行います。また、リスクマネージャー会で報告し院内全体で転倒・転落事故を無くすべく改善に取り組んでいます。

事例を分析すると、リハビリ中の患者さんがナースコールを押さずにベッドを降りようとし、転倒する事例が多いことが分かりました。

事故軽減のための人的対策や注力されている活動があれば教えてください。

院内ラウンドで使用するチェック表は関東のグループ病院で統一したものを使用しています。長年の情報交流で蓄積した情報量は多く、お互いに情報交流が盛んなことは改善策の選択肢が増えることに繋がりますので、医療安全にとって非常に有意義だと感じています。

また、自立度が上がった患者さんの転倒件数が多いため、安全対策として自立の時間帯やベッド周辺の環境調整などの情報が、患者さん・ご家族・スタッフの誰が見て分かるように色分け分類してプレートを掲示しています。

関東のグループ病院の医療安全管理委員会が月に 1 回開催されており、各病院で起きているアクシデント事例や対策を共有して知識を深めると共に医療安全管理者研修や多職種研修を取り入れてグループ全体のレベルアップを図っています。

【プレート色】

白色：自立している状態

黄色：見守り介助必要（手を差し伸べる距離）

赤色：接触介助必要

## 3. 医療安全に関する研修や他院との連携について

医療安全に関連した研修の取り組みについて教えてください。

年に 2 回の院内研修を行っています。テーマは関東グループ病院からの情報よりヒントを得て、当院で未開催の内容があれば行います。また、リスク委員会からの希望やタイムリーな事案を取り入れて開催しています。

研修の参加率は残念ながら目標とする数に達していませんので、参加できなかったスタッフには研修内容のテストを行うことで理解を深めてもらい、参加相当と見なしています。

地域の病院と医療安全に関する連携はありますか？

また、医療安全地域医療連携加算制度の取り組みについて教えてください。

地域医療連携加算 2 を取得していますが取り組みは行っておらず、グループ病院以外の連携はほとんどありませんが、先日は都内の大学病院看護部長からの依頼で「高齢者における転倒・転落対策」として見学を受け入れました。

#### 4. 離床センサーについて

小金井リハビリテーション病院様は下記の離床センサーを導入いただいています。

|              |       |   |              |       |
|--------------|-------|---|--------------|-------|
| コールマット・コードレス | ×8 台  | ／ | サイドコール・コードレス | ×12 台 |
| ベッドコール・コードレス | ×17 台 | ／ | 赤外線コール       | ×2 台  |

離床センサーを使用する場合の基準や効果を教えてください。

転倒・転落アセスメントスコアシートで5点以上の評価や、前院での離床センサー使用歴の情報があれば使用することになっています。離床センサーを使用している患者さんの情報は、ひと目で分かるようナースコールボードに「離床センサー」のシールを付けています。さらに、カンファレンス毎に必ずスタッフに周知することになっています。

また、患者さんの自立度が上がり、離床センサー使用を解除する場合には、すぐに使用解除をせずに日中と夜間に分けて安全に自立ができているかを確認しながら判断することになっています。確認する際は、サイドセンサーを使用したり他のセンサーマットと組み合わせたりして多角的に自立度をチェックしています。

#### 5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

コールマットは設置すると患者さんに警戒心をあたえてしまことがあるので、目立たないように床の色と同色になれば嬉しいです。

また、サイドコールやベッドコールは慣れていないスタッフでも設置が簡単にできるように、どの部分にセンサーが有り、どのように設置すれば良いかセンサーにかかっているなど、更に分かり易くなると嬉しいです。

#### 6. 何か一言お願いいたします。

病院のPRやポリシーなどをお聞かせ下さい。

当院はグループ病院で比較すると病床数は多いですが、転倒率が低い状況にあります。これはスタッフ全員が日々高い意識をもって取り組んでいる成果だと感じていますし、その結果を受けて全員が更に上を目指そうとする取り組み意識の高まりも感じています。対策用具を更に上手く活用することで転倒事例をゼロに出来るように取り組んでいきます。